

平成 29 年度 総会・特別講演会の報告

1. はじめに

北方海域技術研究委員会では、2017 年(平成 29 年)6 月 9 日に平成 29 年度の総会・特別講演会を札幌市のかでる 2・7(1070 会議室)にて開催しました。今回は 67 名(うち日本技術士会会員:23 名)の参加を得、当会の北原幹事の司会により進められました。

2. 総 会

総会は、河合幹事を議長として選出し、「議案 1：平成 28 年度 事業・収支状況報告」、「議案 2：平成 29 年度 役員変更」、「議案 3：平成 29 年度 事業計画・予算案」について議案別に討議され、すべての議案について承認されました。

ここでは、昨年度の活動報告、役員変更及び今年度の活動計画についてご報告します。

(1)平成 28 年度の活動報告

平成 28 年度は、表-1 に示すよう 4 回の講演会を開催し、計 11 件のご講演を頂きました。この場をお借りし、改めて講師の方にお礼申し上げます。

(2)役員の変更

表-2 に平成 29 年度役員一覧を示します。役員の変更は、副代表の飯田誠氏が退任され、後任として斉藤敦志氏が副代表に着きました。また、幹事長の橋本が退任し、松本英明氏が後任となりました。

(3)平成 29 年度の活動計画

当研究委員会は、「北海道周辺の海洋環境変化とそれによる沿岸社会へのインパクト」を研究テーマとして、平成 27 年度から「地球気候変動によってどのような変化が顕在化するか(海水温、海面、極限現象等)」、「それによって海岸・港湾・漁港の災害リスクはどう変わるか」、「水産有用魚種(捕獲漁業、養殖)にはどのような影響が出るか」を主題として取

表-1 平成 28 年度 活動報告

総会・特別講演会 H28.5.27 札幌市 〈参加者：58 名〉	講演 1 「寒地土木研究所 水産土木チームの研究について」 講師：大橋正臣氏 講演 2 「私の水産工学」 講師：谷野賢二氏
講演会 H28.7.22 札幌市 〈参加者：55 名〉	○講演 1 「森と海のつながりの実態にせまる」 講師：長坂晶子氏 講演 2 「マナモコの資源増大に向けた増養殖研究への取り組み」 講師：櫻井泉氏
定例会 H28.9.16 小樽市 〈参加者：41 名〉	講演 1 「沿岸海域活断層の活動履歴を探る」 講師：内田康人氏 講演 2 「石狩湾産ニシン増大への道のり、そして今後」 講師：星野昇氏 講演 3 「工学博士広井勇と築港」 講師：関口信一郎氏
技術研究発表会 H28.11.25 札幌市 〈参加者：52 名〉	講演 1 「日本海北部海域における周年の水域環境と生物生産性向上に向けた検討」 講師：三森繁昭氏 講演 2 「自由落下式密度計を用いた港内浮泥調査について」 講師：大塚淳一氏 講演 3 「北海道区水産研究所の研究課題～環境、資源の変動について～」 講師：中津達也氏 講演 4 「北極研究のいま：世界、日本、北海道」 講師：大塚夏彦氏

表-2 平成 29 年度 役員一覧(敬称略)

代 表	若林 隆司	留 任
副代表	斉藤 敦志	新 任
	大橋 正臣	留 任
幹事長	松本 英明	新 任
幹 事	橋本 孝治	留 任
	北原 繁志	留 任
	山口 幹人	留 任
	河合 孝治	留 任
	北川 紀洋	留 任
	土井 善和	留 任
	井上 真仁	留 任
	峰 寛明	留 任

り組んでおります。

本年度も計4回の講演会の開催を中心に、会員ならび一般参加者との意見交歓を活発にしながら、活動を進めて参ります。

3. 特別講演会

今回の特別講演会では、講演1「磯焼け対策技術に関する道総研水産試験場の研究について」と講演2「洋上風力発電の現状および北海道における今後の導入へ向けて」の2件について講演をいただきました。以下にその内容をご報告します。

(1) 講演1 「磯焼け対策技術に関する道総研水産試験場の研究について」

地方独立行政法人北海道立総合研究機構水産研究本部中央水産試験場資源増殖部資源増殖グループ専門研究員の干川裕氏から「北海道内の漁業生産における地域格差と日本海沿岸漁業に及ぼす磯焼けの影響」「道総研水産試験場の磯焼け対策技術開発」「磯焼け対策の今後(問題と技術的課題)」について、ご講演頂きました。

氏からは、磯焼け要因として、発生要因：海洋環境の変化により対馬暖流の勢力が強くなったことに起因する冬から春の高水温化、持続要因：高密度で生息しているキタムラサキウニの海藻に対する摂餌圧の増加について説明頂き、図-1に示す道総研が取り組む研究のロードマップ等についてお話し頂いた。

そして、磯焼け対策は海洋環境の変化に応じて常に改善していく必要があることを強調され、磯焼け

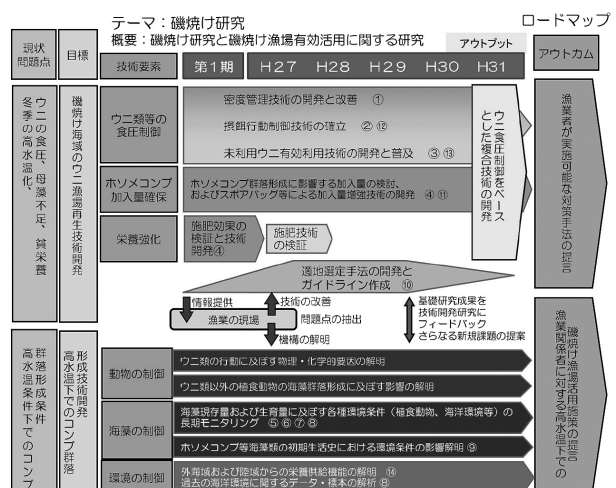


図-1 磯焼け研究のロードマップ

対策として、人間が関与できる「技術」という段階までに到達するには、更なる挑戦が必要であると、ご講演を閉められました。

(2) 講演2 「洋上風力発電の現状および北海道における今後の導入へ向けて」

北海道科学大学工学部都市環境学科教授の白石悟氏から「世界の動向」「日本の動向」「北海道における動き」「北海道における洋上風力発電の将来」について、ご講演頂きました。

氏からは、洋上風力発電が進んでいる海外の事例紹介や日本との比較、図-2に示す洋上風力発電の導入の流れ、北海道における風力発電事業の見通し等について、ご説明頂きました。

最後に氏から、現状の北海道は、エネルギー自給率の低い地域であるが、実は風力エネルギーの宝庫であることを説明され、これを上手く活用することが望まれていると述べられました。さらに、自然環境に恵まれる北海道では、特に自然環境への配慮は欠かせないとし、持続的な北海道社会を実現するために、我々がなすべきことは何かを共に考えましよう、ご講演を閉められました。

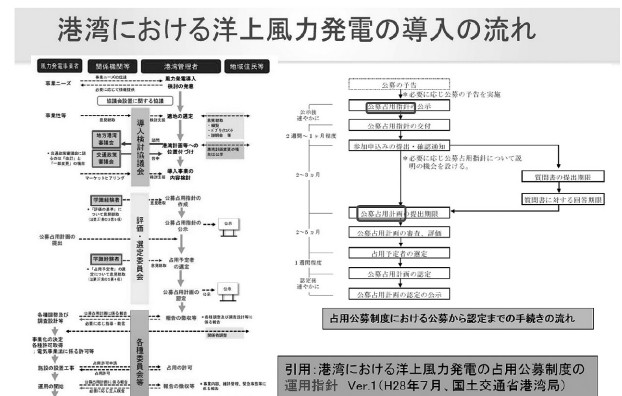


図-2 港湾における洋上風力発電の導入の流れ

4. おわりに

今年度の総会・特別講演会は、例年と比べて参加者数が多く、盛大に開催することができました。また、両講演とともに北方海域に関わる重要な課題であり、参加者から活発な質疑を頂きました。最後にお忙しい中、快くご講演をお引き受け頂いた両講師ならびに参加者の皆さまに心からお礼申し上げます。